

南京都病院における 外来DOTSの現状

～服薬中断を防止できた事例を通して～



国立病院機構南京都病院 結核病棟
看護師長 安達ひとみ

●はじめに

当院は、100床の結核病棟を有し京都府の拠点病院として機能している。

平成14年3月に院内DOTS、4月からDOTSカンファレンス・地域DOTSを開始した。しかし、地域DOTSだけではマンパワーの不足の問題があり、服薬中断者が防止できなかった。このことから少しでも服薬中断者が軽減できないかと考え、平成18年5月より、外来DOTSを開始した。今回、外来DOTSを施行した事例を分析し、服薬中断に及ぼす意義を検証したので報告する。



外来DOTSの様子

●外来DOTSについて

●目的

結核に対する正しい知識のもとに、服薬が継続してできるよう服薬支援を行い、結核治療を完了する

●対象者

退院後抗結核薬を服薬し、外来通院している患者

●期間

抗結核薬服薬終了まで

●実施者

病棟の看護師

●実施日

原則：火曜日・木曜日

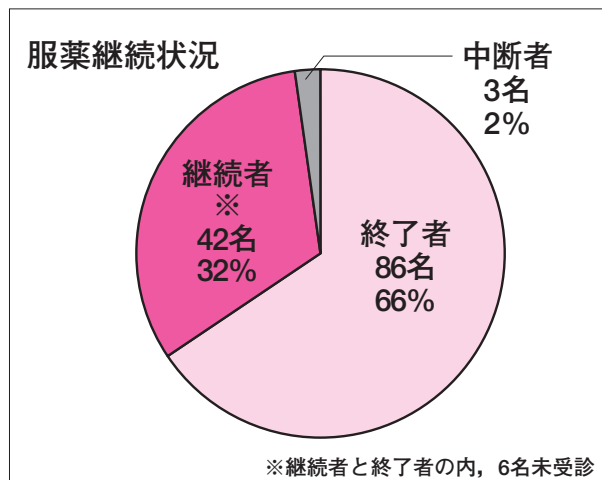
●外来DOTSの内容

- ・服薬状況の確認（空袋、残薬の確認）
- ・服薬手帳の確認
- ・副作用の出現状況の確認
- ・自宅療養生活状況の確認
- ・禁煙、禁酒、食事内容、睡眠状況の確認
- ・服薬困難な状況について

対象者の背景

平成18年5月～平成19年6月まで 131名

項目	区分	人数(名)	割合(%)
性別	男性	93	70.9
	女性	38	29.1
年齢	20～49歳	46	35.1
	50～79歳	71	54.2
	80歳以上	14	10.7
同居有無	有り	106	80.9
	無し	25	19.1
経済状況	生活保護受給者	16	12.2



中断及び未受診者 9事例の背景

平成19年 6月現在

	年齢	性別	家族構成	経済状況	受診状況	理由	治療状況
事例1	20代	男	独居	問題なし	未受診1回	失念	終了
事例2	70代	男	独居	生活保護	未受診1回	経済的問題 認識の希薄	終了
事例3	20代	男	独居	問題なし	未受診2回	失念 認識の希薄	継続中
事例4	50代	男	独居	生活保護	受診7回中 未受診4回	経済的問題 認識の希薄	終了
事例5	50代	男	独居	生活保護	毎回	失念 経済的問題 認識の希薄	終了
事例6	50代	男	独居	問題なし	毎回	失念 認識の希薄	継続中
事例7	50代	男	独居	生活保護	受診1回後中断	不明	中断
事例8	50代	男	独居	生活保護	受診3回後中断	不明	中断
事例9	50代	男	独居	問題なし	受診なく中断	不明	中断

●保健師との連携事例を通して

・事例4の場合
未受診時、即日保健所へ連絡。
保健師より当日中に対応電話や自宅への訪問実施。その際「薬を飲まなくてもいいんじゃないか」「薬に払うお金がない」の声が聞かれた。
→保健師と自宅訪問時や外来受診の度に連携し情報交換を実施、服薬継続につなげた。

・事例5の場合
未受診時、即日保健所へ連絡、連絡が取れないことが多く、再三の電話や訪問、手紙などを繰り返し実施。
かろうじて服薬継続できている状況であった。生活保護が受給されるとすぐに賭け事に使い、生活費も無くしている状況で病院へ行くお金もなく、予約して受診するという意識もなかった。
→保健師と共に、受給日に合わせた受診日の予約を行った。
主治医とも連携し、次回受診日までの内服薬の数量の調整を行った。
保健師と状況を情報交換しながら生活指導を強化し服薬継続につなげた。

・事例6の場合
未受診時、即日保健所へ連絡、仕事をされているため、自宅への訪問や携帯電話など通じないことも多い中、手紙など再三の対応に対して「忙しくて受診できない」と。ただし内服は服用していた。
→主治医と連携、仕事の休みに合わせて、時間外診療を考慮し、受診するよう調整し服薬継続につなげた。

●結果及び考察

9事例の未受診の事例は、「失念」、「認識の希

薄」、「経済的問題」であった。特に頻回に未受診を繰り返す理由は、「ちょっとぐらい薬を飲まなくてもいいんじゃないか」という声が聞かれ、「病院へ行くお金がない」など、「認識の希薄」と「経済的問題」であり、独居で生活基盤の不安定な患者であった。平成11年結核非常事態宣言で打ち出された「日本版21世紀型DOTS戦略」からも、生活基盤が不安定で服薬支援をする家族がいない独居患者は服薬を中断するリスクが高いと言われている。このことから生活基盤が不安定でキーパーソンのいない患者に対しては、病気の理解はもちろんのこと、服薬継続の必要性や生活指導を根気よく説明していくことが必要である。

また、退院に向けては、生活基盤を整え、経済的問題を解決できるよう支援することが重要であると考えられる。

今回、外来DOTSを開始したことで、中断防止に繋がったポイントとして、

- ①未受診当日に患者に対応したこと
- ②繰り返し対応したこと
- ③看護師・保健師がよく話を聞き、根気よく指導したこと

が考えられる。また、指導に関しては、病棟看護師が実施したことで生活面や社会面に関することも相談しやすくなり、その結果、精神的支援に繋がったと考える。

●結論

外来DOTSの意義として

1. 中断の兆しを速やかに察知し、対応することが中断防止に繋がる。
2. 看護師、保健師の双方から継続的に指導・精神的支援することが中断防止に繋がる。